

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	相談援助の理論と方法A(Theory and Method of Social WorkA)	授業コード	E042801
担当教員名	小桐 修		
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	4
履修上の注意または履修条件	社会福祉士国家試験受験資格を取得しようとする者は必ず受講してください。すでに「相談援助の基盤と専門職A・B」を履修していることが望ましい。かなり専門的な内容(福祉専門職の技術)に立ち入るので、社会福祉士(ソーシャルワーカー)をめざすのであれば、益に乏しい科目かもしれません。		
受講心得	よく考えること、たくさん読むこと、真摯な態度で授業に臨むことを心がけてください。		
教科書	使用しません。		
参考文献及び指定図書	新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規出版		
関連科目	相談援助の基盤と専門職 社会福祉援助技術演習Ⅱ 社会福祉援助技術現場実習		

授業の目的	ソーシャルワーカーとして欠くことのできない技術の理解・習得を目的とします。
授業の概要	「社会福祉士及び介護福祉士法」は、「身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うこと」を、「相談援助」と位置づけている。本科目「相談援助の理論と方法」は、「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正に伴って大幅に見直された新カリキュラムに基づくものであり、旧カリキュラムにおいて「社会福祉援助技術論」と呼ばれていた科目に該当する。旧カリキュラムの「社会福祉援助技術論」がソーシャルワークを、個別援助技術(ケースワーク)、集団援助技術(グループワーク)、地域援助技術(コミュニティワーク)に細分化してとらえていたのに対して、新カリキュラムの「相談援助の理論と方法」は、個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアント・システムとしてとらえ、それらのシステムを横断する統一的なソーシャルワーク理論を展開する点に特徴がある。本科目では、相談援助の構造と機能、相談援助における援助関係、相談援助の展開過程、アウトリーチの技術、契約の技術、アセスメントの技術、介入の技術、経過観察(モニタリング)・再アセスメント・効果測定・評価の技術、面接の技術、記録の技術、交渉の技術を講ずる。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： オリエンテーション	参考文献及び指定図書の項に記した『相談援助の理論と方法Ⅰ』の内容を中心に授業を進めます。購入することが望ましいですが、図書館を利用して予習・復習をすると学習効果が上がります。
第2週： 相談援助とは	
第3週： 相談援助の構造と機能①	
第4週： 相談援助の構造と機能②	
第5週： 人と環境の交互作用①	
第6週： 人と環境の交互作用②	
第7週：	

相談援助における援助関係①	
第 8 週 : 相談援助における援助関係②	
第 9 週 : 相談援助の展開過程 I ①	
第 10 週 : 相談援助の展開過程 I ②	
第 11 週 : 相談援助の展開過程 II ①	
第 12 週 : 相談援助の展開過程 II ②	
第 13 週 : 相談援助のためのアウトリーチの技術①	事例を提示します。
第 14 週 : 相談援助のためのアウトリーチの技術②	
第 15 週 : 相談援助のための契約の技術①	事例を提示します。
第 16 週 : 相談援助のための契約の技術②	
第 17 週 : 相談援助のためのアセスメントの技術①	事例を提示します。
第 18 週 : 相談援助のためのアセスメントの技術②	
第 19 週 : 相談援助のための介入の技術①	事例を提示します。
第 20 週 : 相談援助のための介入の技術②	
第 21 週 : 相談援助のための経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術①	事例を提示します。
第 22 週 : 相談援助のための経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術②	
第 23 週 : 相談援助のための面接の技術①	事例を提示します。
第 24 週 : 相談援助のための面接の技術②	
第 25 週 : 相談援助のための記録の技術①	
第 26 週 :	

相談援助のための記録の技術②		
第27週： 相談援助のための交渉の技術①		
第28週： 相談援助のための交渉の技術②		
第29週： 相談援助における対象の理解①		
第30週： 相談援助における対象の理解②		
授業の運営方法	(1)授業の形式	
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	「人と環境」に対して関心を持つことができる。
【知識・理解】	「人と環境」をシステムとして把握し、相談援助の理論と技術を理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	相談援助とは何かを自分の言葉で解説できる。
【思考・判断・創造】	相談援助の必要性を現実社会において想定できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	70			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	原則として毎回、講義の最後に授業内容について課題を出します。 達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他(無形成果)	授業の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点します。